

「微分積分」2章 2.4節の正誤表 (2021年7月15日現在)

第7刷までの正誤表

頁	場所	誤	正
p.66	下から7行目	関数 $y = f(x)$ について、ある区間で $x_1 < x_2$ ならば $f(x_1) < f(x_2)$ （つまりグラフが右上がり）となるとき、 $f(x)$ は単調増加である、あるいは $f(x)$ は増加するという。逆に $x_1 < x_2$ ならば $f(x_1) > f(x_2)$ （つまりグラフが右下がり）となるとき、 $f(x)$ は単調減少である、あるいは $f(x)$ は減少するという。	関数 $y = f(x)$ について、ある区間で $x_1 < x_2$ ならば $f(x_1) < f(x_2)$ （つまりグラフが右上がり）となるとき、 $f(x)$ は 狭義 単調増加である、あるいは $f(x)$ は増加するという。逆に $x_1 < x_2$ ならば $f(x_1) > f(x_2)$ （つまりグラフが右下がり）となるとき、 $f(x)$ は 狭義 単調減少である、あるいは $f(x)$ は減少するという。 これに対し、 $x_1 < x_2$ ならば $f(x_1) \cdot f(x_2)$ となるとき、 $f(x)$ は (広義)単調増加 であるという。同様に、 $x_1 < x_2$ ならば $f(x_1) \cdot f(x_2)$ となるとき、 $f(x)$ は (広義)単調減少 であるという。